

平成30年度入学試験問題（後期日程）

小 論 文

教育学部 学校教育教員養成課程 小学校教育コース
教科教育専攻

注 意 事 項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないように注意すること。
4. 解答時間は、90分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

問 題

学校教育に関する議論において、これからの授業は「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指すべきだとされています。このうち「対話的な学び」とは、「子供同士の協働，教職員や地域の人との対話，先哲（昔のすぐれた思想家や学者）の考え方を手掛かりに考えること等を通じ，自己の考えを広げ深める学び」のことをいいます。

この「対話的な学び」が，現代の子供たちになぜ必要とされているかについて，あなたの考えを述べなさい。また，小学校の具体的な学年（低・中・高学年という括りでもよい）と教科を想定したうえで，「対話的な学び」を実現する授業アイデアを示しなさい。

(800 字以上 1000 字以内)

平成30年度入学試験問題（後期日程）

小論文

教育学部 学校教育教員養成課程 小学校教育コース

教科教育専攻

出題の意図

本学部のアドミッションポリシーに示される「教育という営みの本質を学びつつ、主として学校教育に関わる今日的な問題に真剣に取り組もうとする」人材を求めるという観点から、21世紀を生きる力を育むための学びを意識した新しい「小学校学習指導要領」（平成29年3月公示，移行期間を経て平成32年度より全面実施）における鍵語の一つ「対話的な学び」を取り上げた。「学習指導要領」改訂に向けた中教審答申（平成28年12月）には「対話的な学び」によって「身に付けた知識や技能を定着させるとともに，物事の多面的で深い理解に至るためには，多様な表現を通じて，教職員と子供や，子供同士が対話し，それによって思考を広げ深めていくことが求められる」とあり，これが「対話的な学びの意義」であると見なせるが，受験者には，自由に考えを述べてもらいたい。また，授業アイデアについては，出題文に示した定義から「対話」が単なる「会話」でないことを読み取ったうえで，「わたしは小学校の教師になって，このような授業をしたい」という意欲を示してもらいたい。なお，これらの考えや意欲を的確に表現する文章力も評価の対象とする。